

立命館大学国際平和ミュージアム 2016 年度秋季特別展  
「絵葉書にみる日本と中国:1894-1945」関連映画上映会

立命館大学  
国際平和ミュージアム  
Kyoto Museum for World Peace,  
Ritsumeikan University

怒りと悲しみと

# アリ 蟻の兵隊

池谷 薫 (「延安の娘」) 監督作品

製作:権 洋子 | 撮影:福居正治・外山泰三 | 録音:高津祐介 | 編集:田山晃一 | 音楽:内池秀和 | 音響効果:鈴木利之 | コーディネーター:劉 慶雲・大谷龍司 | 2005年 | 日本 | カラー | 35mm | 1時間41分 | ヴィスタ  
配給:運ユニバース | 協力:蟻の兵隊製作委員会・蟻の兵隊を顧る会・プログレッシブピクチャーズ・芸術文化振興基金助成事業

世界で初めて“日本軍山西省残留問題”に正面から斬り込んだ長篇ドキュメンタリー



小泉・安倍氏は  
「国のために命を捧げた魂」のため  
靖国神社に行くという。  
一寸待ってください！  
ここに国に棄てられた兵隊が  
いるじゃないか！

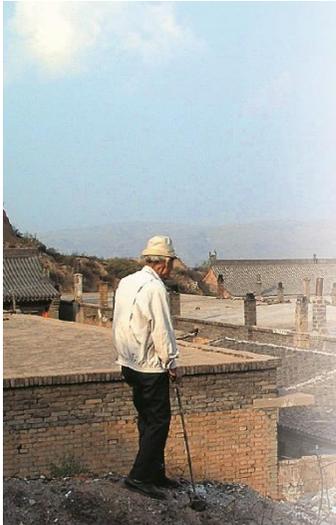
怒りを呼び戻そう!!

★ 鳥越俊太郎 ミニスの職人・ジャーナリスト

当時、元残留兵らを取材して  
気になることがあった。  
彼らが「日本はまた  
戦争に向かっている」と言ったのだ。

奥村さんはもういない。  
だが諦めてはいけない。  
次につづく世代の我々が  
今こそ声を挙げようではないか。

★ 池谷薫 蟻の兵隊監督



## 私たちは上官の命令に従い、蟻のようにただ黙々と戦った

今も体内に残る無数の砲弾の破片。それは「戦後も戦った日本兵」という苦い記憶を奥村和一(80)に突き付ける。かつて奥村が所属した部隊は、第2次世界大戦後も中国に残留し、中国の内戦を戦った。世界の戦争史上類を見ないこの“売軍行為”を、日本政府は兵士たちが志願して勝手に戦争をつづけたと見なし黙殺する。「自分たちは、なぜ残留させられたのか?」真実を明らかにするため中国に通いつづける奥村に、心の中に閉じ込めてきたもう一つの記憶がよみがえる。終戦間近の昭和20年、奥村は「初年兵教育」の名の下に罪のない中国人を刺殺するよう命じられていた。これは、自身戦争の被害者であり加害者でもある奥村が、「日本軍山西省残留問題」の真相を解明しようと孤軍奮闘する姿を追った世界初のドキュメンタリーである。



### 日本軍山西省残留問題とは?

終戦当時、中国の山西省にいた陸軍第1軍の将兵59000人のうち約26000人が、ポツダム宣言に違反して武装解除を受けることなく中国国民党系の軍閥に合流。戦後なお4年間共産党軍と戦い約550人が戦死、700人以上が捕虜となった。元残留兵らは、当時戦犯だった軍司令官が責任追及への恐れから軍閥と密約を交わし「祖国復興」を名目に残留を画策したと主張。一方、国は「自らの意志で残り、勝手に戦争をつづけた」とみなし、元残留兵らが求める戦後補償を拒みつづけてきた。2005年、元残留兵らは軍人恩給の支給を求めて最高裁に上告した。



このままでは死んでも死にきれない!!

蟻の兵隊  
The Ants

監督:池谷薫 | 製作:権 洋子 | 撮影:福居正治・外山泰三 | 録音:高津祐介 | 編集:田山晃一  
音楽:内池秀和 | 音響効果:鈴木利之 | コーディネーター:劉 慶雲・大谷龍司 | 撮影技術:ゴウエスト | 録音スタジオ:三友VTC | レーザーネコ:ヨコネD.I.A.  
取材協力:全国山西省在留者団体協議会 | 撮影協力:中国国家広播電影電視総局・山西省人民政府外事弁公室  
写真提供:小松崎輝一・盛岡タイムズ社 | 映像資料:FCT福島中央テレビ | スチール:岡本 央 | HP作成:中山綾子 | 日本語字幕:赤松太  
芸術文化振興基金助成事業 | 製作・配給:運ユニバース | 協力:蟻の兵隊製作委員会・蟻の兵隊を観る会・プロGRESSIV ピクチャーズ

公式HP: <http://renuniverse.com/ari>

### 映画上映&監督トークイベント

日時 2016年11月26日(土)  
13:00~(12:30~開場)  
会場 立命館大学衣笠キャンパス 充光館  
地階 301 教室

※申込不要・入場無料  
※お問合せ 立命館大学国際平和ミュージアム  
TEL 075-465-8151



池谷薫監督来る!!

